

第14回 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

- 1 日 時 令和2年3月30日(月) 10時45分～
- 2 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
- 3 出席者 委員11名のうち8名出席
- 4 傍聴者 1名
- 5 会議経過 (1) 開会 10:45
(2) 挨拶
傍聴確認(事務局より傍聴者1名と報告)
議事録署名確認(名簿順につき伊藤委員に依頼→了承)
資料確認(配布漏れなし)
(3) 報告
①東京2020オリンピック聖火リレーの現状について
②東京2020大会への出場状況について
③ドミニカ共和国渡航報告について
④その他
(4) 閉会 11:40

6 議事概要

○長江会長

皆さん、こんにちは。年度末ということで、皆さんお忙しい中、推進会議にご協力いただきまして本当にありがとうございます。

それでは、次第に沿いまして進めさせていただきたいと思います。新型コロナウイルスの関係もありますので、報告と議題を一括して事務局よりご説明をいただき、その後、委員の皆様からご意見をいただければと思います。会議等もできるだけ短縮して時間を有効に使うということと、オリンピックに関しては延期という判断になりまして、それをプラスに捉えて、準備期間としていかによい準備ができるかという前向きな議論を本日させていただけたらと思いま

すので、ご協力よろしく願いいたします。

それでは、事務局から一括してご説明をよろしく願いいたします。

(事務局から一括して説明)

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、事務局からのこれまでの取り組み、今後の予定も含めた形で説明がございました。皆様方から質問やご発言をいただきたいと思います。

それでは、岡本委員から、スポーツの分野から見て、いかがでしょうか。

○岡本委員

東京オリンピックが来年の夏に延期になった。これはもう確定したわけですから、粛々とそれに向かっていろんな面で我々も進んでいかななくちゃならないなという感じを持っております。ただ、本市ゆかりの選手、それからドミニカ共和国、ルーマニアの選手でオリンピック出場圏内に入っている選手が延期したことによって、オリンピック・パラリンピックに出られるという方向に、少しでも多くなってくれたらいいなという感じも持ちました。

あとは、コロナについてのいろいろと心配な部分はあるんですが、国内外問わず、感染者や亡くなる方も増えてきており、日本の医療というのはしっかりしているんだという認識を持っていたんですけども、なかなか抑えこむことはむずかしいんだなという印象を持ちました。本当に一体となって危機意識を持っていかなければいけないのかなという感じを持ちました。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、橋口委員いかがでしょうか。

○橋口委員

このような状況なので、会長もおっしゃったように、1年あるということで、引き続き啓発・啓蒙していくというのが大事なことなのかなと思います。4大学の連携というところでも、まだまだ密に連携がとれているという実感はありませんので、そういったところでも、ワーキンググループを含めて何か動き出すきっかけになればと思います。そのときに、学生の入れかわりがあるので、今年まで頑張っていた学生と、また来年に延びてしまっ携われない学生も出てくると思うんですが、その調整も含めてやっていかなきゃいけないのかなと思いました。

あと、やはりコロナの関係で、パラのアスリートも含めてなんですが、非常に注意をしなければいけないというところと、あとスポーツ選手は非常に免疫力が下がってくるというところもあるので、事前キャンプ等のときに、しっかりと関係部署と連携しなければならないと思いました。また、来年度、終息しているとは限らないので、そういう意味では、呼ぶはいいけれども対応がで

いということがないように準備しなければならないというところも、検討していかげればいけないのかなと、今資料を見て思いました。

○長江会長

ありがとうございます。西機委員、いかがでしょうか。

○西機委員

何らかの行動をするという前提ですけれども、このドミニカ共和国の体操競技との覚書がありましたけれども、このような覚書は他の競技団体とも交わしているのでしょうか。

○事務局

ドミニカ共和国は体操、テコンドー、バレーボール、ソフトボール連盟と覚書を交わしています。

○西機委員

バレーボールの出場はまだわからないのでしょうか。

○事務局

バレーボールは決まっています。テコンドーも3名出場が決まったということは聞いております。ただ、やはりコロナの影響がありまして、具体的な事前キャンプのやりとりをする時期だと思うんですが、それが中断している状況でございます。

○西機委員

なぜ今それを確認したかったかといいますと、私のラグビーの経験から言って、こういうことが寸前に決まっていて、大会まで、それから大会後の人材養成とか、競技に関するレガシーを残すということは、事前キャンプが決まるのがどうしても寸前だったので、やっぱり難しかったんですね。

このように1年間、ある意味猶与ができたのであれば、もう少し競技に特化してしまっ、全部やるというのは難しいと思いますが、ここに出ている競技の普及などを行ってもいいと思います。この覚書も、こういう状況になったので、もう1回見直しということにはなるんでしょうけれども、それを待っているとこっちが動き出せないで、こういう方との交流ですとか、先ほど挙げた有力選手の方々の広報ですとか、何らかの関わりというのは、準備していった方がいいのかなと思っています。

その中でちょっと気になるのが、新年度、市として予算計上されていたものが、こういう状況になったときに、これをそのまま使えるのかどうかというところで随分違ってくると思うので、この1年をその予算がもし活用できるのか、または使うことが難しいのであれば、何らかの活動を少し組みかえることが必要となると思いますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

もう1つは、やはりこの計画表を見ても、これだけ2019年度の実績情報がたくさんあるのに、やっぱり2020年度の実施予定が少ないのを見ると、大会が終わった後にどういうものを用意しているのかというのがわかりづらいですし、大会を運営する人たちは大会まででいいと思うんですけれども、大会を活用しようとする人は、大会の後の計画の方が重要であると思います。こういう緊急

な状況になって、目先のことの対応はかなり大変なのは私自身も重々承知しているんですけども、だからこそ、どなたか担当を決めて先のことを考えて実施する人間を、このボランティアの養成もそうですし、手前のことに引っ張られない誰かをここに付けて、計画を立てるということを、もっと極端に言えば、さらに2年先、3年先の計画になるので、そういうことを考える方を設ける必要があるんじゃないかというふうに思いました。

○事務局

それに対しまして、以前からこの取り組みが終わった後どうするのかということ、直近のスケジュールもよく見えないというご指摘をいただいておりますので、今回、直近のスケジュールを年間計画という形で出ささせていただきました。ただ、再来年度の大会の日程がまだ出ていないということで、私どもでも、来年度の計画をどうしようかということもあったのですが、とりあえず、ここまで計画してきたものを一度ご提示させていただいて、その上で、またご意見をいただいて、再度こちらで新年度こういった会議でお示しさせていただくという、ちょっと段階を踏んでやらせていただきたいという思いがあり、今回こういった計画書を出させていただきました。

それで、レガシーを残すという部分につきましては、松戸市全体の総合計画の策定を現在しております、来年度が松戸市全体の総合計画の最終年度に当たるということがございます。その中で、私どもも総合計画の担当者へ、先ほど述べておりましたように、スポーツの交流のことですとか、こういった推進会議で、今までには出会ったことがなかった商業関係者、文化関係者、スポーツ関係者、国際交流の関係者、市内4大学の方などが顔を合わせるという機会を、終わった後もできるような形ができないかということをご提示させていただいております。

先ほど触れるのを忘れてしまったんですけども、このやさシティおもてなシティ推進会議の取り組みについて、実績として14回行っているということ、あとこの取り組みを進めていくエンジンになっているということで、評価いただいているところでございます。それは何より松戸市内に、様々な人材がたくさんいらっしゃる。けれども、それを活用しきれていない松戸市側の体制というのもあるかと思っておりますので、今後もそういった視点で、総合計画の中にも位置づけられるようにしていきたいと考えております。

○西機委員

1点だけよろしいでしょうか。

私、発言したのはポジティブな意見として申したのですが、この表が今まで見えなかったところがあったので、こういう形で出てきたから今言うべきことが言えますので、ある意味そういうレガシーづくりに対するリハーサルができた分、来年もう1度これだけのことが、市民や、もっと新たなステークホルダーを巻き込むことができると思うので、もう1年やってPDCAできる機会を生

かしてほしいと思いますので、よろしく申し上げます。

○長江会長

ありがとうございます。

では、スポーツ選手の側から、佐々木委員いかがでしょうか。

○佐々木委員

自分の周りもかなりイベントが中止になってしまったりとか、世界大会が延期になってしまったりとかで、結構気持ちが折れている選手がいるので、今選手の目線から自分が考えるのはすごく不安な要素とか、一生かけて挑んできたものがなくなってしまうとか、気持ち的な面がかなり大きいと思うので、小まめにそこら辺は相手側と連絡をとってあげて、進捗情報ですとか、気持ちの面でのケアをしてあげたらと思っています。

○長江会長

選手の側からの不安解消の情報というようなことですが、連絡は小まめにとっ
ていらっしゃるんですか。

○事務局

連絡は随時とっております。

また、選手の方々の不安解消もそうですが、松戸市のほうでも応援しているよというメッセージ届けられるように、今後も工夫をしていきたいと思っております。

1つのやり方としまして、以前のイベントの際に、市民の方にメッセージフラッグ
とって、オリンピック・パラリンピックが来ることに対するメッセージを自由
にお子さんから大人の方まで書いていただくという活動を行いました。今回は
松戸市ゆかりの選手ですとか、ホストタウンの選手の方々に向けたメッセー
ジフラッグをつくらせていただこうと思っておりましたが、イベントはなかな
かできないのですが、メッセージを集めるということはできると思いますので、
何らかの形で、市民の方から選手の方々に思いが通じるようなやり方を工夫し
ながらできるようにしたいと思います。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、観光の面から須田委員お願いいたします。

○須田委員

今、佐々木委員からもあったように、イベントはほとんど中止になっていま
して、4月の桜祭り、5月上旬のイベントは全部中止という形になっており、
野外であっても中止になっています。イベントはなかなか難しいのかなと思っ
ていますが、その中で西機委員からもあったように、もう少し具体的な役割分
担なりが課の中にあるといいのかなと思っていて、うちもプロモーションとか
で、ルーマニアやドミニカ共和国の関係でお手伝いさせていただいている中で、
今後の業務のやるべきことが見えてきていないというのが現実としてありま
す。そのあたりをもう少し具体的に、来年の時期が決まっていないのはも

ちろん前提としてありますけれども、少なくとも今年と同じようなスケジュールを組んでおくのか、それとももうちょっと違う形で組みかえるのか、そのあたりを早目に示していただけるといいなと感じています。

○長江会長

ありがとうございます。事務局からいかがでしょうか。

○事務局

新年度に当たりまして予算もついている部分もあるので、観光協会の皆様にご協力いただいている部分もございますし、そこら辺は密に連携をとっていきたいと思っております。あと様々な方と関わりが増え、広がっていくということも、このオリパラの取り組みにおいては多々ございますので、それもあるべく拾い上げていけるようにしていけたらと思っております。

皆様のお力を結集していかないと、なかなか海外の選手とつながるということもできないので、いろんなチャンネルを使って今後ともやっていきたいと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、国際交流の観点から伊藤委員よろしく申し上げます。

○伊藤委員

今回の会議は、先ほど課長からもお話があったように、延期の決定の前のこれまで計画してきたものをご紹介していただくということで、若干虚しさを感じるんですけども、ただ、資料を拝見して、これまでやってこられたことをかなり細かく書いて整理していただいたもの、あるいは、日ごろ私どもも見ている限りにおいて、特にドミニカ共和国とルーマニアとの交流について、非常に積極的にやっていただけたのかなと思っております。

特にホストタウンになっている市町村はたくさんあると思いますが、2カ国をホストタウンにしているところはそんなにないし、かつ、2カ国に対して既に市長が訪問をして盛り上げていただけたということは、なかなかないんじゃないかなと思います。ですので、松戸市はそういう意味では先端を進んでいると私自身は思っているし、担当課の方々が努力してきたことについて、この進捗状況のところでは評価されているところを見てもわかるとおり、非常によくやっていただけたのかなという気がして、感謝したいと思っております。

ただ、そういう状況を踏まえて今回1年延期になったということで、この1年をどういうふうにしてそれを維持して、また来年の今ごろこういう気持ちで迎えられるかというふうには持ってくるのは非常に難しいのかなと思っております。特に国内、市内のゆかりの選手に対して、いろいろとできることはあると思っておりますけれども、ホストタウンとの関係というのはやっぱり相手がありますので、これまでと同じようなメンタルを維持して1年後のオリンピックにつなげるというのがなかなか難しいのかなと思います。

その他の関連で、先ほど西機委員からもお話がありましたけども、私も、来年度のホストタウンとの関連で確保されていた予算をどういうふうに使われるのかなというのが気になっております。そのまま再来年度に持ち越させるのであれば、ほぼ何もできないのかなと思います。ですが、その一部の予算を何か別の形で、来年度、両国との間で交流が行えるよう、コロナとの関係もあると思いますが、この事態を踏まえて考えていただければと思います。

○長江会長

ありがとうございます。

○事務局

予算の執行に関しましては、いろいろな制約もあるかとは思いますが、事前キャンプも含めて、ホストタウン交流のためのものですか、人材育成のためのものですか、夢の教室の予算があります。コロナの関係で制限されてしまう部分もあると思いますが、できればその目的に沿うような形の予算の執行ができるようにしたいと思っております。

ただ、相手国への渡航ですとかは難しいので、国内にいらっしゃる関係者の方とつながるとか、ルーマニアやドミニカ共和国のホストタウンになっているほかの市町村がありますので、横のつながりも意識しながら、できる限りのことをチャレンジするようにしていきたいと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、商工業のほうから、商工会議所の薄葉委員よろしくお願ひします。

○薄葉委員

特に申し上げることはございませんが、資料をよくまとめてあるなという今の印象です。それで、この会議でということではないかもわかりませんが、都市機能の中で商業、サービス業の持っている役割といいますか、それを1年後も維持したい、松戸の町の姿がどういう形になるのか維持したいということで、経済部門とはもう三、四回打ち合わせの会議を開いている状況です。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、皆様方に一言ずつご発言いただきましたが、私から2点ほどよろしいでしょうか。

1つは、私どもの大学で、高田千明さんというパラリンピアンの方がいらっしゃって、大学で学生向けの講演をしていただいたり、先日こちらの担当課と連携しまして、「パラリンピックの開催後にレガシーとして残すもの」というシンポジウムを計画しておりましたが、それがコロナウイルスで中止になりました。それは延期して将来やりたいと考えておりますし、4月18日にも予定しておりました冬季オリンピックの岡崎朋美元選手も大学の客員教授なので、一般の生涯学習の講演をご依頼しておりましたものも延期になりましたけれど、これも来年度しっかりやっつけていこうという方向になっております。

それと、ぜひ4大学で何か連携できればというふうに思っておりまして、担当課の方が何回もうちの大学で学生のボランティア募集のときに講演に来てくださいました。そのためボランティアに手を挙げてくれた学生たちがおりまして、本当に身近なことのできることからということで、成田空港についての外国からの方々や、オリンピックに来ていただいた方々に、日本的なものとして手づくりの折り紙を何千個と折って差し上げたいというようなことを考えており、もう作成に入っております。この取り組みについては千葉県からも認定されましたが、それが来年になるわけですので、若い世代の学生たちがちょっとでも何か関わり、他の3大学の方々と、これから先1年延びたことによって何かうまくつながればいいなというふうに思っております。

それから、大学関連ではなくて、ロータリークラブというのが松戸市内に5つありまして、インターミーティングという1年間の事業の中間で見直しをする会議というところがありまして、ロータリークラブは国際交流も柱になっており、先日松戸市の取り組みを5クラブの方々に向かってプレゼンしていただきました。ドミニカ共和国とルーマニアの大使館の方々や、それぞれの交流をしている協会の方々、こちらの推進課の担当者などに来ていただいて、ロータリークラブの方々にとっては松戸市がやっていることの中身が初めて見えたということで、それぞれの団体とつながっていただくことによって、できる限り動きが見えるようにお役に立てればなと思っております。

それでは、最後に何か質問とかご意見等がございましたらお願いしたいと思います。

○西機委員

情報としていただきたいのは、ルーマニアとドミニカ共和国内のコロナの状況が、実際どのようになっているのかということと、どうなることが想定されていますか。ラグビーワールドカップの時もそうなんですけども、台風があったりしたときに、それをきっかけに交流がある意味深まったり、違うアクションが起きたりと、非常にいい交流ができた場合があります。今回でいえば、マスクを送ることであったり、こういう状況を一緒に乗り越えるような何らかの活動支援ができると、1年後、また関係が深まった中でオリンピックを迎えられると思います。

あと、パラリンピックの関係で、事前キャンプについてパラリンピック競技がないので、これからのパラリンピックの計画について、情報収集をしていただけるといいんじゃないかと思えます。

○事務局

コロナの関係ですが、ドミニカ共和国では、現在100人程度の感染者がいるということが発表されております。

ルーマニアにつきましては、ヨーロッパですので、非常に感染者が今広がっているということで、1000人以上の方がいらっしゃるということで、3月の中旬に、非常事態宣

言を出されていらっしゃるということを知っております。

実はルーマニアの卓球競技連盟の方からは、7月に行く事前キャンプの日程調整をしていたんですが、コロナの影響が非常に緊急度を増し、3月19日付で、市長名でルーマニアオリンピック委員会やほかの競技連盟の会長様宛てに、ぜひ乗り越えていきたいと思いますというレターを出させてくださっているような状況でございます。

日本自体も刻々と状況が変わっておりますので、ドミニカ共和国やルーマニアもそうですが、非常に大変な状況になってきているというのは認識しております。

パラリンピックにつきましては、ドミニカ共和国に行った際に、スポーツ大臣にお会いし、お伺いしてきたんですが、まだ確定している選手がいないという情報でございます。ルーマニアについては、同じホスタウンの武蔵野市では、パラリンピック選手のキャンプを行うというような情報もありましたので、情報収集に努めていきたいと思っております。

○長江会長

よろしく申し上げます。それでは、皆様方から何かございますでしょうか。事務局から何かございますでしょうか。

○事務局

特にないです。

○長江会長

それでは、きょうは時間短縮の会議ということで、委員の皆様方、事務局の皆様方にご協力いただきまして、会議はこれで終了させていただきたいと思っております。

次回の会議は、日程が決まりましたら正式にご通知させていただきます。本日は大変な事態の中、ご参加いただきまして、ありがとうございました。